取扱説明書

播種機

THK6700

当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

播種機 THK6700 を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、『**播種機 THK6700**』の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。**ご使用の前には必ず、この取扱説明書を熟知するまで**お読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになった後も**必ず製品に近接して保存**してください。

- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

- この取扱説明書を紛失または損傷された場合、速やかに当社にご注文ください。

- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただきましたお店、またはお近くの特約店・販売店・ＪＡにご相談ください。

- ⚠印付きの下記マークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

⚠ 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性がある物を示します。
⚠ 注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント**「安全に作業をするために」**を記載してあります。ご使用前に必ずお読みください

目　　次

はじめに

１．　安全に作業をするために・・・・・・・・・３～６

２．　安全銘板の貼り付け位置・・・・・・・・・７

３．　本製品の使用目的について・・・・・・・・７

４．　各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・８

５．　仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

６．　組立要領・・・・・・・・・・・・・・・・９～１０

７．　運転・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１～１３

８．　各部の調整・・・・・・・・・・・・・・・１４～１８

９．　手入れ及び保管上の注意・・・・・・・・・１９～２０

１０．　故障の診断と処置・・・・・・・・・・・２１～２４

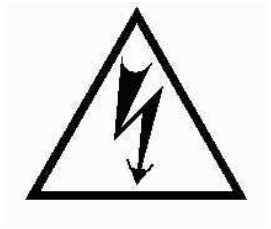
1. 安全に作業をするために

ここに記載されている注意事項を守らないと、
死亡を含む障害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

⚠ 警告　**アース線を必ず取付ける**

万一の感電事故を防ぐために必ず、アース線を
取付けてください。

【守らないと】
感電事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告　**子供を近づけない**

子供には充分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】
障害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告　**電機部品・コードを必ず点検**

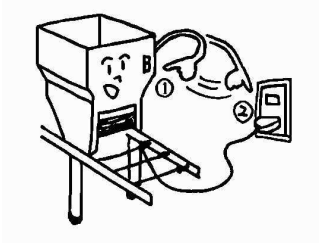
配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや
接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】
ショートして、火災事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告　**２人以上で作業をする時は、お互いに合図しながら機械を始動する**

【守らないと】
思わぬ事故になることがあります。

⚠ 警告　**点検・整備時には必ず電源を「OFF」にし、差込みプラグを抜く**



点検・整備は、必ず電源スイッチを「OFF」にし、
差込みプラグを抜いてから行ってください。

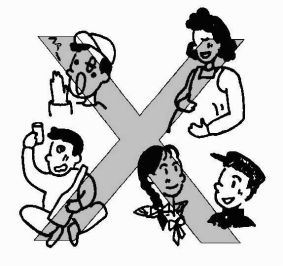
【守らないと】
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意　**使用前に取扱説明書を必ず読む**

使用前に取扱説明書をよく読んで、安全で正しい作業をしてください。

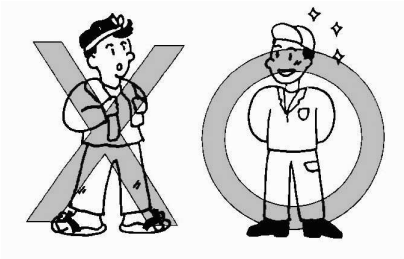
【守らないと】
傷害事故や機械の破損を引き起こします。

⚠ 注意　**こんな時は作業しない**



- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
- 酒を飲んだ時
- 妊娠している時
- 18 才未満の人

⚠ 注意　**作業に適した服装をする**



はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。
作業に適した、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 注意　**点検・整備を行う**

機械を使用する前と後には必ず点検・整備をしてください。

【守らないと】
事故・ケガ、機械の故障を招くおそれがあります。

⚠ 注意　**電源はAC１００Ｖ専用コンセントに接続する**

また、たこ足配線はおやめください。

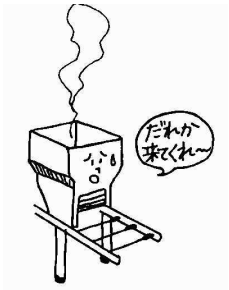
【守らないと】
火災事故の原因となります。

⚠ 注意　**作業中停電した場合は、必ず電源スイッチを切る**

【守らないと】
通電時、急に回りだし思わぬ傷害事故を起こします。

⚠ 注意　**作業を中断・修了した場合は、必ず電源スイッチを切る**

【守らないと】
ショートして、火災の原因になることがあります。



⚠ 注意　**カバー類は必ず取りつける**

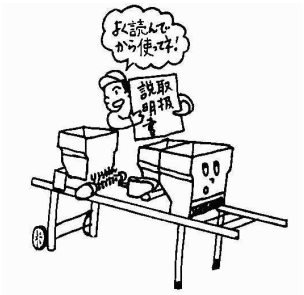
点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取りつけてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意　**機械を他人に貸す時は、取扱方法を説明する**

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】
傷害事故や、機械の破損を招くおそれがあります。



⚠ 注意　**機械の改造禁止**

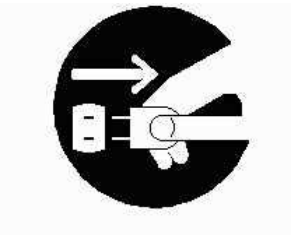
純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。
また、改造はしないでください。

【守らないと】
事故・ケガ、機械の故障を招くおそれがあります。

⚠ 注意　**後始末を忘れずにする**

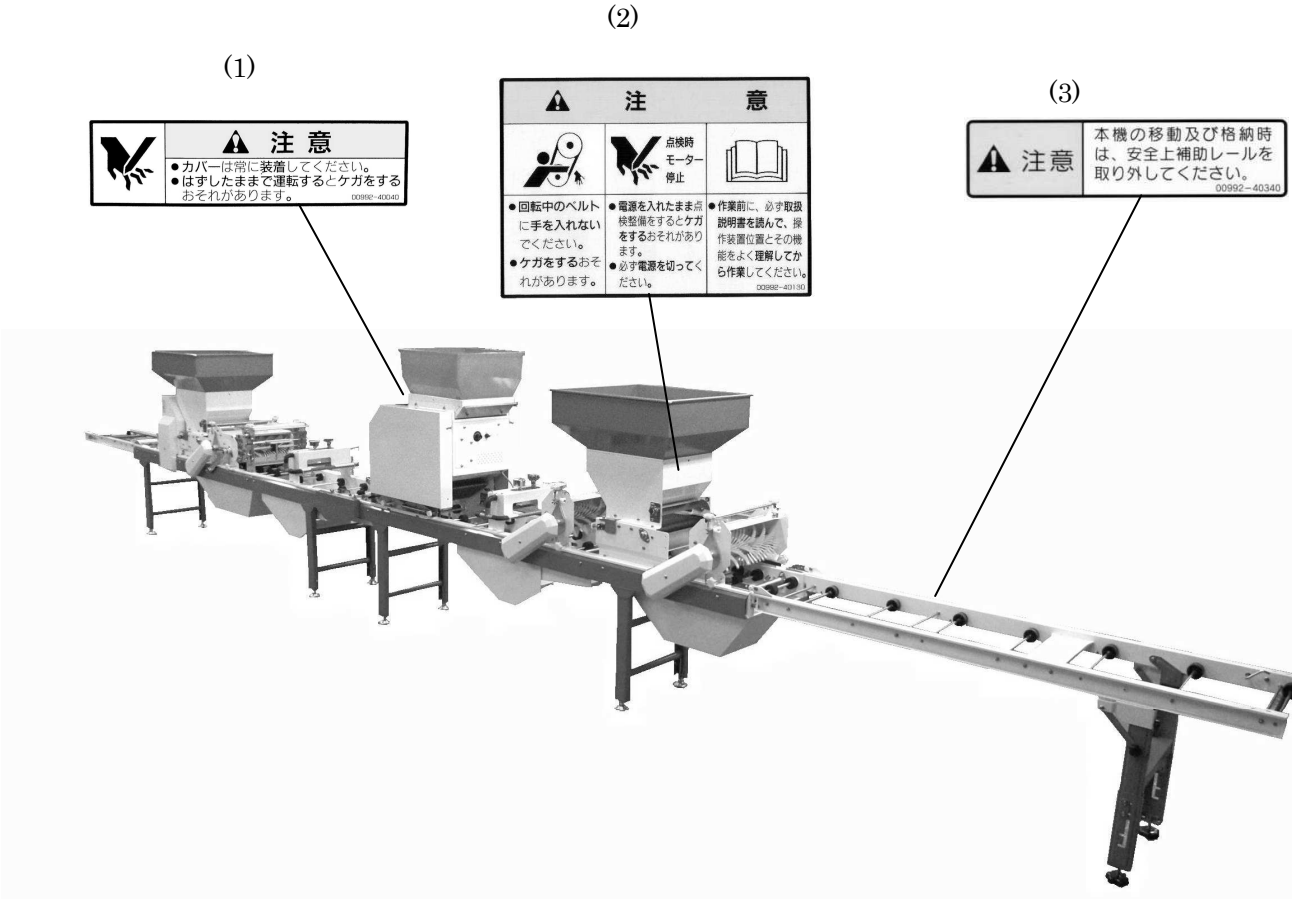
長時間使用しない時は、差込みプラグをコンセントから
抜いてください。

【守らないと】
火災事故や、感電故障を招くおそれがあります。



2. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業をしていただくために安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しい物に貼り直してください。



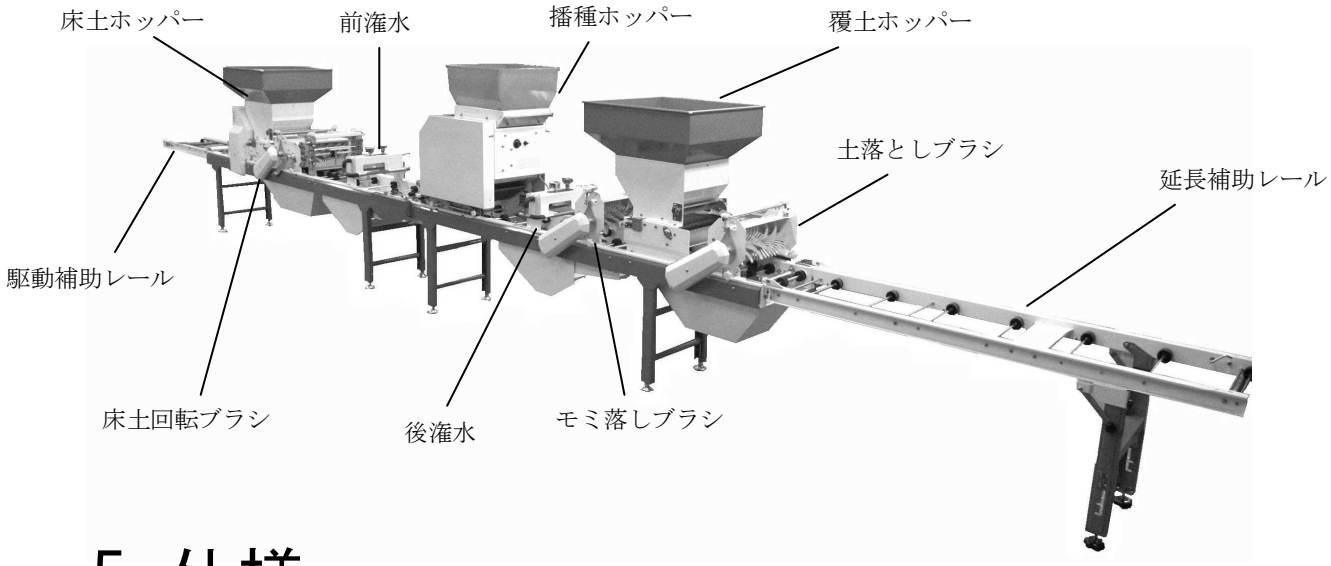
紛失または破損された場合には、当社へ下記の表を参考にご注文ください。

No	部品番号	部品名称
(1)	00992－40040	注意ラベル　CL-3
(2)	00992－40130	注意ラベル　CL-10
(3)	00992－40340	注意ラベル　CL-20

3. 本製品の使用目的について

本製品は、育苗箱への土入れ・播種・覆土の作業機としてご使用ください。
目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

4. 各部の名称



5. 仕様

型　　式		THK6700
機体寸法	全　長	7400mm
	全　幅	542mm
	全　高	1260mm
重　　量		280kg
入力電源		単相 100V
モーター容量	搬　送	100W／三相 200V(電源 100V インバータ制御)
	床　土	40W／100V
	播　種	60W／三相 200V(電源 100V インバータ制御)
	覆　土	25W／100V
ホッパー容量	床　土	72ℓ
	播　種	28ℓ
	覆　土	72ℓ
床土均平方式		ダブル回転ブラシと前後スミ取リ装置
土入れ量	床　土	2.4～4.0ℓ ／箱（15～25 ㎜厚）
	覆　土	0.5～1.5ℓ ／箱（3～9 ㎜厚）
播種	方　式	インバータによる無段階調節
	播種量	80～280ｇ／箱（120～420mℓ ／箱）
前潅水		0.8～1.3ℓ ／箱
後潅水		0.3～0.6ℓ ／箱
能　　力		700･800 箱／時

6. 組立要領

6-1 脚の高さ調節

本体の水平が出るように、脚の調節ボルトにて調節してください。

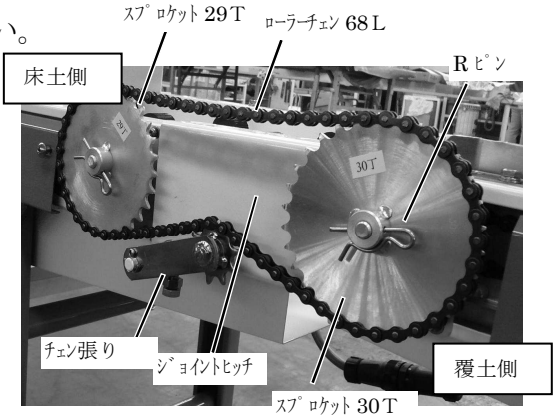
6-2 コンベアジョイントの組付

(1) 双方のフレームジョイント部を差し込んでください。

(2) 床土レール側の駆動軸にスプロケット(29T)、播種･覆土レール側にスプロケット(30T)ローラーチェン（68L）を組付けてＲピンでセットしてください。

(3) ジョイントヒッチを六角ボルトで調節してください。

(4) チェン張りを、六角ボルトで調節してください。

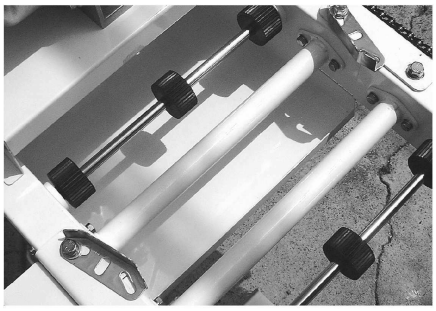


（注意）チェン張り調節の際は、必ずジョイントヒッチを六角ボルトで固定してください。又、張り具合は、遊びを取る程度に行い強く張らないでください。

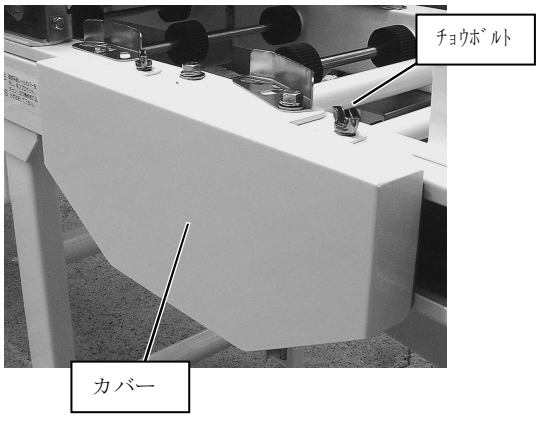
（搬送ローラーのシャクリ、モーターの焼損の原因となります。）

(5) ジョイントヒッチに付いている苗箱案内用のガイド板は、レールのつなぎ目に苗箱が引っ掛らないようにする為の物です。

苗箱の幅より 3～5ｍｍ広くなるよう調節してください。

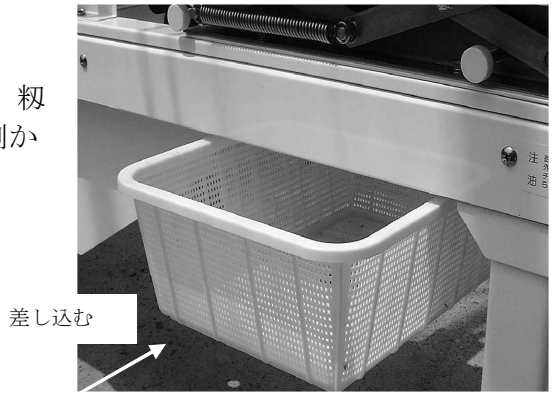


(6) 調節が終わりましたら、必ずカバーを組付けてチョウボルトで固定してください。



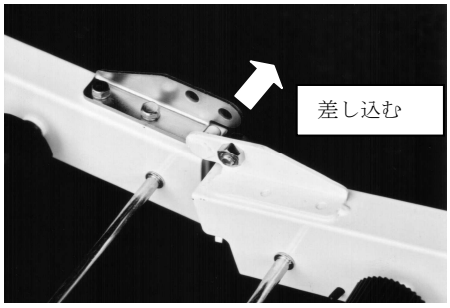
6-3 籾受ケカゴの組付

籾受ケカゴ(大)を播種ホッパー下側から、籾受けカゴ(小)を籾落とし回転ブラシの下側から差し込んでください。



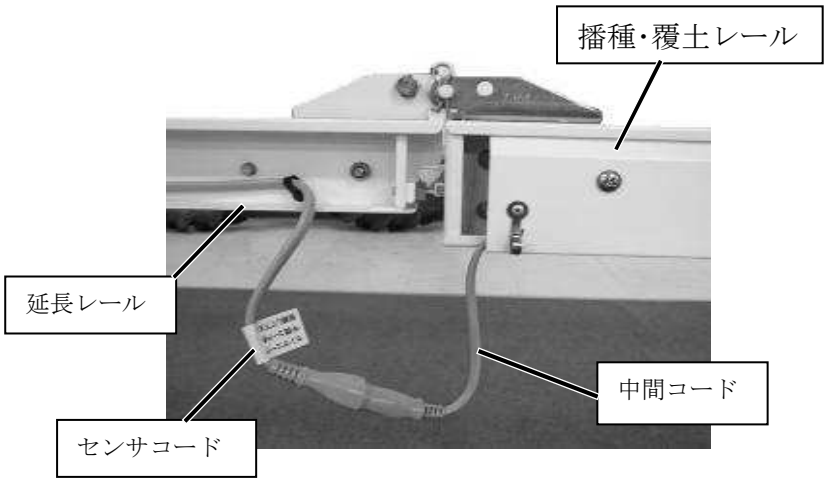
6-4 延長補助レールの組付

延長補助レールを連結し、R ピンで抜けないように固定してください。



6-5 センサコードの接続

延長レール先端にあるセンサから出ているコードプラグを、播種・覆土レールより出ている中間コードと接続してください。



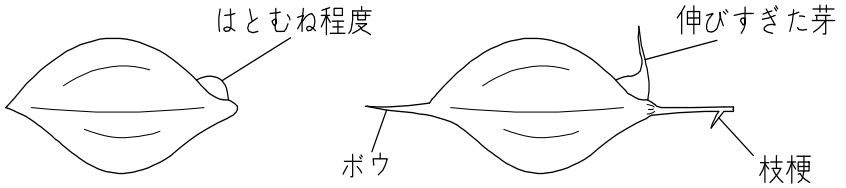
（注意）播種機を移動する際は、補助レール及び延長レールを取り外してください。

7. 運転

7-1 運転前の準備

(1) **種もみの処理**

- 種もみはゴミやボウ、枝梗を取り除き、育苗方法に従って、塩水選、消毒、浸種、芽出しを行ってください。　尚、**ボウ、枝梗は播種ムラの原因になるので特に注意して取り除いてください。**
- 種もみは「はとむね」位に芽出しをして、芽が伸びすぎないよう注意してください。又、手に付かない程度に陰干しをして、種もみの水分を十分切ってから播種してください。　**種もみの水切りが完全でなかったり、芽が伸びすぎていたりすると「播種ムラ」の原因**になります。



(2) **土の処理**

- 本製品は潅水から播種までの距離を短く設定しているので、**床土は浸透性の良い土**をご使用ください。
- 床土に使用する土は5mm目のフルイを通したものを使用し、床土の水分は、片手でかるく握って開いた時にかたまり、指で触るとすぐ崩れる程度にしてください。
- 水分の多い土は、ブリッジ（土がホッパーから出てこないこと）の原因となるので、特に注意してください。
- 覆土に使用する土は、よく乾燥していて４mm目のフルイを通したものを使用してください。

(3) **本機の設置**

平らな場所を選び、全体が水平になるように脚の高さ調節ボルトで調節してください。

（注意）設置が悪いと苗箱が片寄り、「**播種ムラ**」、「**潅水ムラ**」等の原因になる場合もあるので、特に注意してください。

(4) **育苗箱**

- 育苗箱はできるだけ同じ種類のもので、「**ソリ**」、「**ネジレ**」のない箱を使用してください。
- 育苗箱の種類が同じものでない場合は、箱の高さで選別してください。（**箱の高さが異なると本機の再調整が必要**になります）

(5) 催芽について

芽だしの際は、ハト胸程度を十分に守って下さい。芽の出し過ぎは播種ローラーの溝に入りにくく、入っても回転ブラシですり切る時に、種籾が取られてしまい、播種精度を悪くします。

(6) 水切りについて

種籾は、播種する前に必ず水切りを十二分に行ってください。水切りが不十分ですと

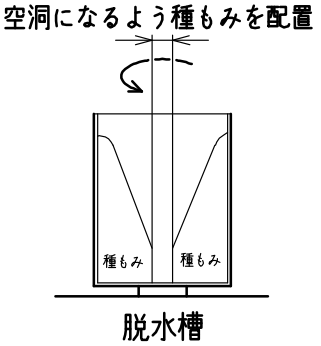
① 播種ローラーの溝に入りにくい。

② 播種ローラーの溝から落ちないで、持ち帰りをする。

③ 回転ブラシが濡れて、毛と毛が絡んでしまう。

等が発生する恐れがあります。

尚、水切りの目安としては、洗濯機の脱水槽にて 3～5 分脱水したものが最適です。



7-2 搬送・床土・播種・覆土の運転

注)電源電圧は AC100V±5V を安定して供給してください。

適切な電源電圧でないと、故障や動作不良の原因となります。

本機の床土部、播種部、覆土部は**『手動』**と**『自動』**の 2 種類の運転モードがあります。各部のスイッチを**『自動』**にすると、センサが苗箱を感知し自動作業を行います。

運転を始める前に、操作盤より出ている電源コードを単相 100V に差しこみ、操作盤横のブレーカースイッチを「ON」にします。電圧計が作動し、本機に 100V が供給されたことを確認してください。

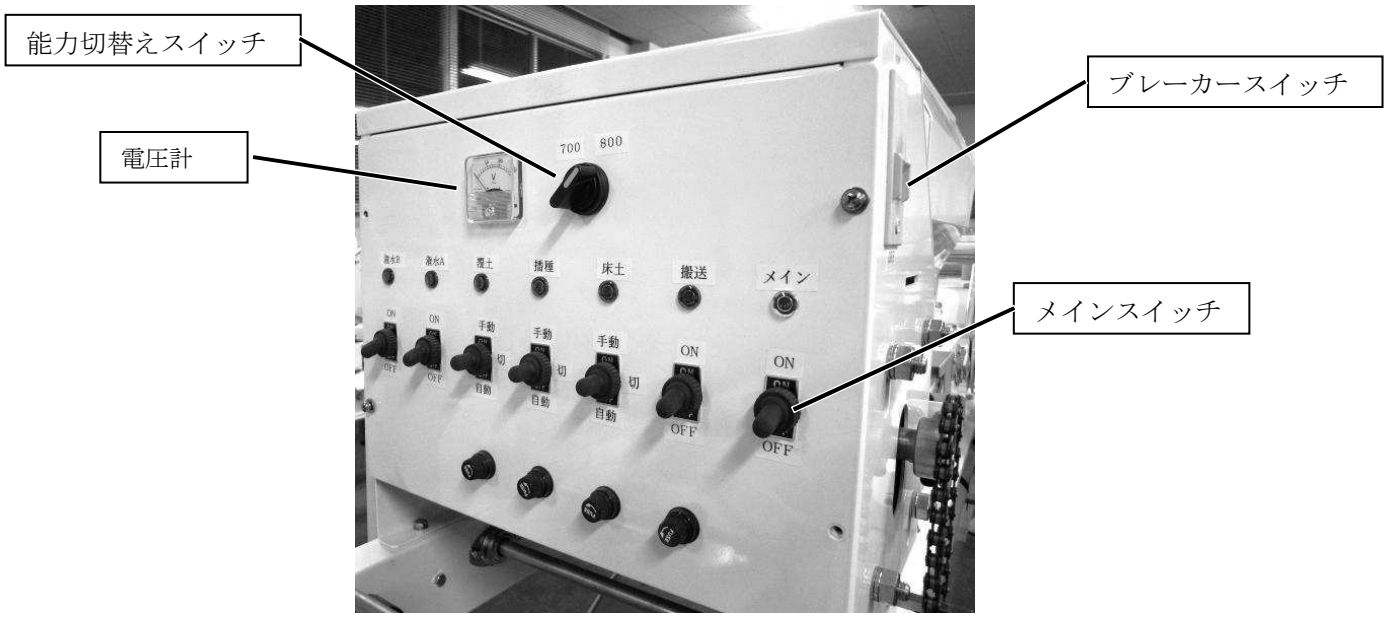
(1) 手動運転

- メインスイッチを「ON」にします。ランプ(橙)が点灯します。
- 各スイッチを「ON」または「手動」にすると各部が作動します。

  →各部が正常に作動するか確認してください。

(2) 自動運転

- メインスイッチを「ON」にします。ランプ(橙)が点灯します。
- 搬送スイッチを「ON」すると搬送ローラーが作動しますので苗箱をセットしてください。
- 床土、播種、覆土のスイッチを『**自動**』に入れた状態でセンサの作動状態を確認してください。センサの確認テストは苗箱を搬送するか、またはセンサのアームを倒して行ってください。



- センサの確認が終わったら潅水 A、潅水 B のスイッチを「ON」にしてください。水が出ます。

(注意)潅水装置は操作盤のスイッチのみで動作します。(センサでは動作しません。)

(3) 搬送能力の切替え

- 能力切替えスイッチを操作することで搬送能力が 700･800 枚/時に変化します。出荷時は搬送能力 700 枚/時に設定してあります。作業条件により調節してください。

(4) 播種機の停止

- メインスイッチを「OFF」にすると全停止します。
- 再度メインスイッチを「ON」にすると再スタートします。

(注意)ブレーカースイッチでの全停止は行わないでください。ブレーカースイッチを「OFF」にして再度「ON」するときは 10 秒以上待ってから「ON」にしてください。

作業終了後は各スイッチを「OFF」にして、電源コードをコンセントから必ず抜いてください。

潅水プラグには潅水装置のコンセントを差し込んでください。それ以外のものを差し込むとショートしますので絶対に差し込まないでください。

8. 各部の調整

8-1 床土・覆土ホッパー

(1) 床土・覆土量の調節はホッパーの側面にある調節ノブで調節してください。

(2) 覆土は、粘土質な土を避け乾いた土を使って種籾がかくれる程度に行います。

8-2 回転ブラシの調節

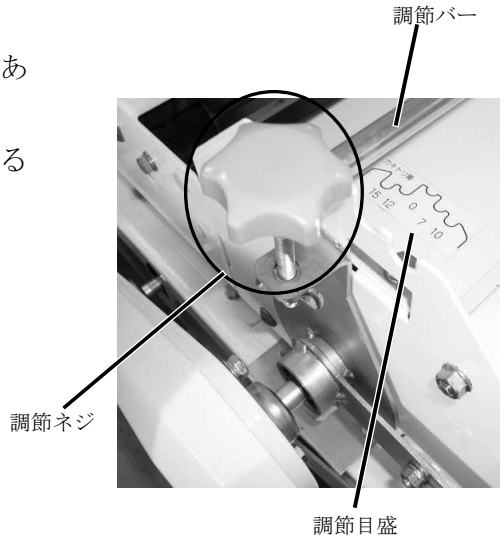
2 種類の回転ブラシが標準装備となっております。調節方法は両方とも同様です。

回転ブラシの調節は、育苗箱の種類により箱の高さが異なりますのでご使用する箱に合わせてください。

(1) 調節バーが回転ブラシスタンドの『0』の位置にあることを確認してください。

(2) 育苗箱の上面と回転ブラシのスキマを『0』になるよう調節ネジで調節してください。

(3) 調節バーを移動して望みのカキトリ量に合わせてください。



8-3 前後スミ取リ装置の調節

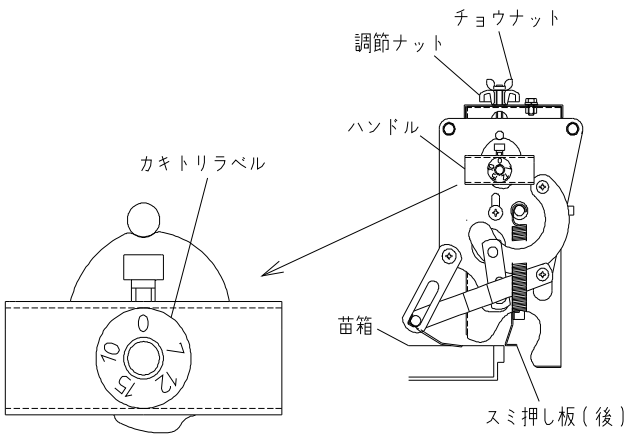
この前後スミ取リ装置は、育苗箱の前後の隅を取る装置です。箱の種類により高さが異なりますので、ご使用する箱に合わせてください。

(1) カキトリラベルが 0 の位置になっている事を確認してください。

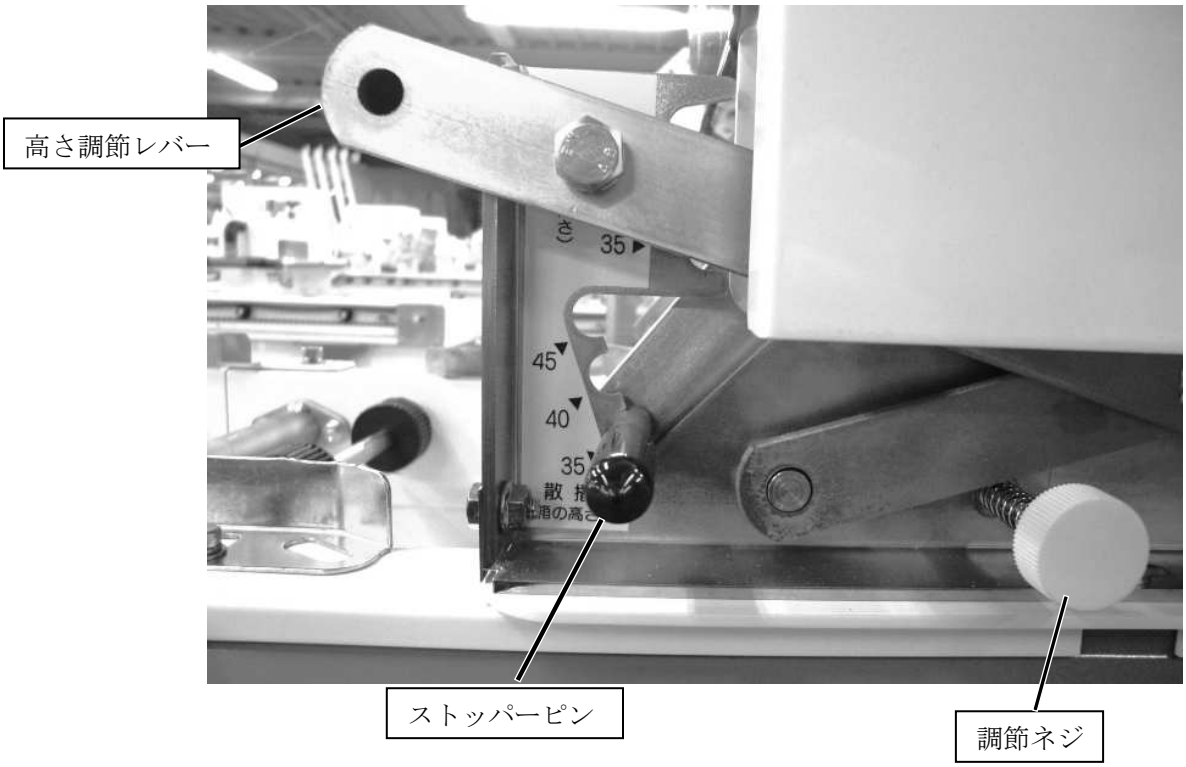
(2) チョウナットを緩め、育苗箱の上面とスミ押シ板先端のスキマが『0』になるよう、調節ナットで調節してください。

(3) ハンドルを回すと『7 ㎜』『10 ㎜』『12 ㎜』『15 ㎜』カキトリにセットされます。カキトリ量に合わせて調節してください。

(4) ダブル回転ブラシに付いている箱ガイドを調節ネジで育苗箱に合わせ、スミ押シ板が箱の中に入るよう調節してください。



8-4 播種装置



(1) 播種装置の高さ

育苗箱の高さに応じて、高（45 ㎜）・中（40 ㎜）・低（35 ㎜）の 3 段階に調整出来るようになっています。ご使用の育苗箱に合わせ、セットしてください。

尚、調整方法は、高さ調節レバーを上に持ち上げ、ストッパーピンを各数値の溝にあわせます。

(2) 箱ガイドの調整

播種装置の下側にある箱ガイドは、調節ネジにて育苗箱が中心に来るように調整します。

（注意）育苗箱が引っ掛からないよう、余裕（3～5 ㎜）をもって調節してください。

(3) 播種量の調節

① 播種量調節目盛は、1～10 迄の範囲で無段階に調節出来ます。

② 「低速」・「高速」の切り替えは、播種カバー（右側）を外しスプロケットの掛替えにより行います。

③ 播種量の目安を別表に示しますが、種籾の品種、催芽、水切りの状態により異なりますので、必ず実測してからご使用ください。

変速比 ＼ 調節目盛（単位）			0 ～ 10	一目盛の増減量
700箱/時	低速 12T-37T	催芽 g	75 ～ 170	約 10 g
		催芽 ml	110 ～ 255	約 15 ml
	高速 19T-32T	催芽 g	130 ～ 295	約 17 g
		催芽 ml	195 ～ 440	約 25 ml
800箱/時	低速 15T-37T	催芽 g	80 ～ 180	約 8 g
		催芽 ml	120 ～ 270	約 12 ml
	高速 23T-32T	催芽 g	145 ～ 290	約 15 g
		催芽 ml	215 ～ 435	約 22 ml

（参考） 1 合＝180 ﾐﾘﾘｯﾄﾙ≒120ｇ（催芽）

8-5 モミ落しブラシ・土落しブラシの調節

苗箱の縁に乗った種もみ・土を落とす装置です。
回転ブラシが苗箱の上面に軽く掛かる程度に高さを調節します。

8-6 潅水量の調節

床土が必要とする潅水量は、床土の種類や乾燥状態により異なります。潅水量の調節が十分になされず、湿害や潅水不足を起こし、出芽、生育に支障をきたすことのないよう特に次のことに注意してください。

(1) 潅水量の決め方

① 床土の水分状態

乾燥している土は多く潅水し、湿った土は少なく潅水します。必要以上に潅水すると湿害を生じたり、逆に潅水不足だと種もみの根上がり現象を起こしたりします。

② 箱の種類

木箱の場合は、箱自体が水分を吸収するので潅水量をやや多めにします。また、プラスチック箱は水分が逃げにくいのでやや少なめに潅水します。

(2) 真水潅水する場合

① 水道のコックを開き、下表を参照しながら、使用する水圧に潅水装置側のバルブで調節してください。水道の元圧の変動が大きい場合はコックを全開にしてください。

真水灌水量の調節

前灌水

圧力計目盛 MPa	0.02	0.04	0.05	0.06	0.08	0.1	0.12
700枚/時 灌水量ml/箱	470	650	730	790	885	940	960
800枚/時 灌水量ml/箱	410	570	640	690	780	820	845

後灌水

圧力計目盛 MPa	0.02	0.04	0.05	0.06	0.08	0.1	0.12
700枚/時 灌水量ml/箱	395	530	600	640	710	760	790
800枚/時 灌水量ml/箱	350	470	530	560	630	665	700

20074-41261

② 育苗箱を1箱通し、床土入れ、均平、潅水して3分くらいたって**水分がやや落ち着いてから水の浸透状態を確認してください。**

8-7 薬剤潅水の仕方

後潅水装置は、**「リゾーブス菌」による苗立枯病の発生防止に使用**するもので潅水と同時に薬剤散布が出来るようになっています。

(1) 潅水量及び薬剤吸込み量

薬剤灌水量の調節(後灌水のみ)

能力 (枚/時)	700	800
圧力計目盛(MPa)	0.04	0.05
薬剤灌水量(ml/箱)	565	555
薬剤吸込み量(ml/箱)	91	91

10リットル当たりの薬剤量(g)

500倍	110	110
800倍	69	69
1000倍	55	55

※ダコニール消毒防除基準は500,800,1000倍液を
1箱当たり500ml散布となっております。

20074-41311

(2) 消毒液の作り方(ダコニール、ダコレート)

☆薬液消毒の防除基準は、一般に 500～1000 倍液を 1 箱当り 500mℓ 散布(1～0.5g)となっています。

(各地域の育苗指針、農業改良普及員の指導、薬剤の説明書などに従ってください。)

(例)播種機の能力が 700 枚/時で 800 倍のダコニール消毒液を散布する場合

① バルブで水圧を 0.04MPa にセットします。

② 1 箱当たりの薬剤吸込み量は 91mℓ です。800 倍で散布する場合、表を参照して水 10ℓ 当り薬剤 69g の割合で調合してください。

③ 消毒液の必要量は、苗箱枚数×薬剤吸込み量です。100 箱育苗する場合 100 箱×91mℓ =9100mℓ =9.1ℓ

となり、9.1ℓ の消毒液が必要となります。

必要薬剤量=必要消毒液量(ℓ)÷10ℓ ×水 10ℓ 当たりの薬剤量(g)

よって 9.1ℓ ÷10ℓ ×69g=62.8g の薬剤が必要になります。

(注意)

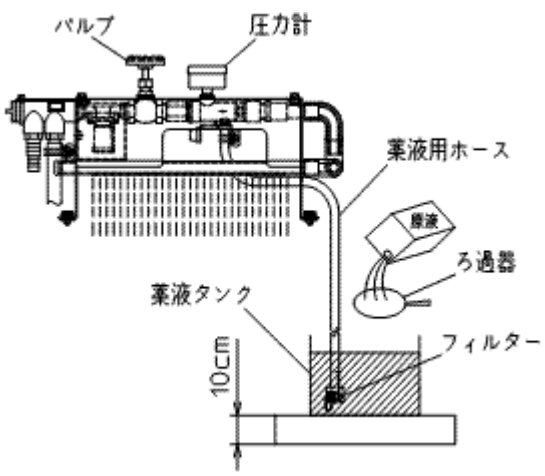
(1) ダコニール、ダコレートとタチガレンの同時使用、近接処理は薬害を生じるおそれがありますので避けてください。

(2) 薬液タンクは地上より 10 ㎝位上げてください。

(3) 薬剤が沈んでしまわないよう時々攪拌(かくはん)してください。

(4) 吸込み用ビニールホースの先端に付いている**フィルターが詰まると薬剤吸込み量が減少します。**時々確認し詰まっていたら掃除してください。

(5) 水和剤を使用する時は、原液をろ過器に通しますと目詰まりがなく正確な散布が出来ます。



9. 手入れ及び保管上の注意

9-1 手入れ

(1) ヒューズ

ヒュ-ズは、表示の容量のものを使用してください。

過大容量のもの、又は、銅線、鉄線などを使用すると過負荷となり、駆動モーターの焼損の原因となります。

(2) アース

感電防止の為、アースは必ず設置してください。

(3) 潅水装置

① 薬剤潅水を行った時は、真水を吸い込ませ潅水ポンプの内部を良く洗浄してください。

② 潅水ノズルは、ノズルブラシで掃除をし、水を勢い良く出してパイプ内をきれいにしてから、ゴム栓をしてください。

③ 冬期凍結しないように水を完全に抜いてください。特に吸込みノズル内の水は抜きもれのないように注意してください。水抜きが不完全ですとサビ等の発生により来季使用時に目詰まりの原因になります。

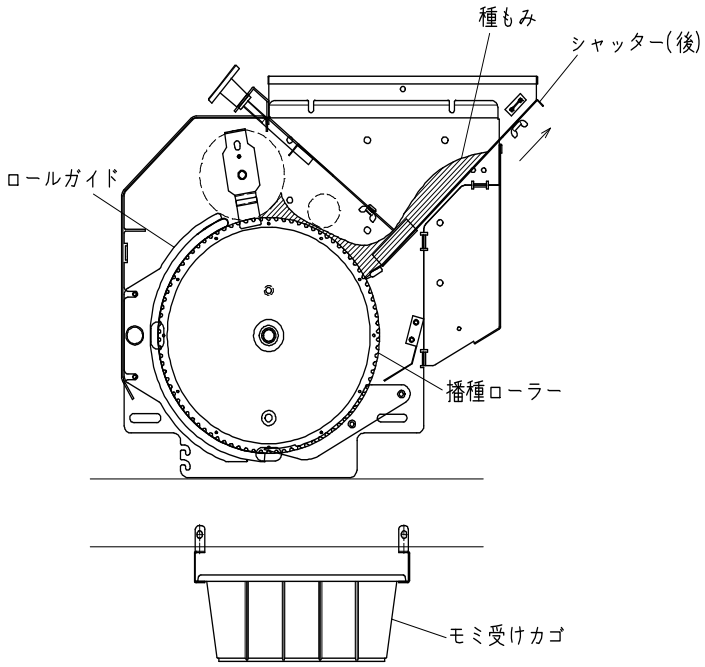
(4) 残留種もみ

播種作業終了時は、ホッパー内の種もみが残らないようにしてください。(ロールガイドが破損するおそれがあります)

① ホッパー後部のシャッター（後）をスライドさせ開いてください。残留種もみが下方に落ち、もみ受けカゴに溜まります。

② 播種部のスイッチを「手動」にし播種ローラー内にある種もみを排出してください。

③ シャッター（後）をスライドさせ閉めてください。



※シャッターを閉める際は播種ローラーに突き当て、スキマのないようにしてください。種もみの排出が終わったら播種部のスイッチは『自動』に戻してください。

(5) 洗浄

① 機械を洗浄する場合は、駆動モーター、操作盤、床土、播種、覆土各センサへの放水は避けて、布切れ等でふき取るようにしてください。

② 床土・播種覆土の各フレームカバーを外し、フレーム内の泥土を排除してください。

(6) 注油

洗浄後、良く乾かしてから、各軸受及びローラーチェーンに必ず注油してください。

① 床土・播種覆土の各フレーム内のローラーチェーン。

② 床土入れ・覆土の各軸受。

③ 播種部内のローラーチェーン。

④ 各回転ブラシ装置のローラーチェーン。

9-2 保管上の注意

(1) 本機は直射日光を避けたところに保管してください。
(2) 雨を避け、平坦なところに保管してください。

9-3 注意事項

(1) 播種回転ブラシの手入れ

毛が変形してしまうと播種精度に影響しますので、変形に注意してください。

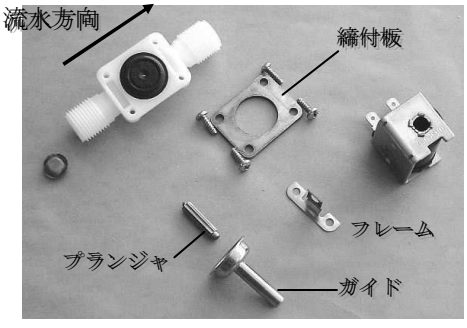
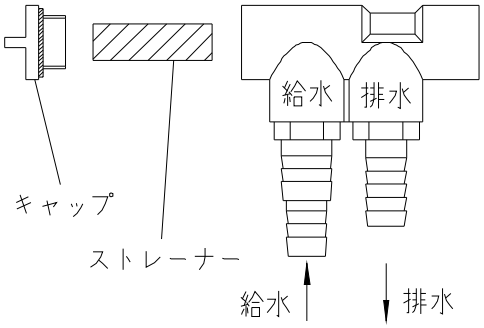
- 水洗いによる変形。
- エアーブロー使用による変形。
- 物を置いた為に発生した変形。

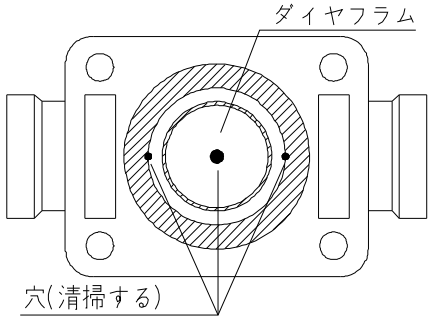
等

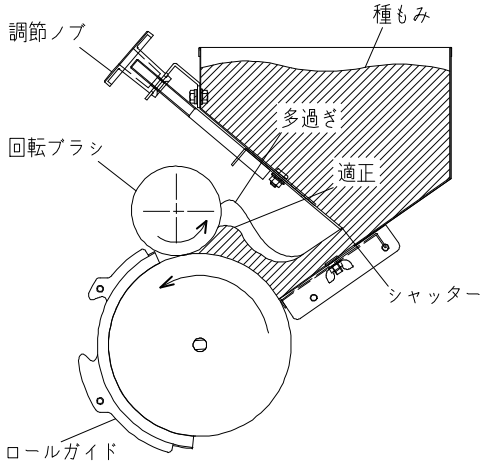
(2) ロールガイド

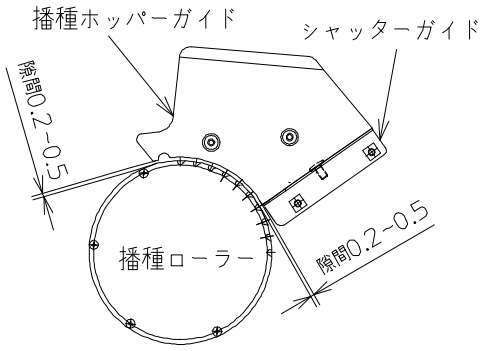
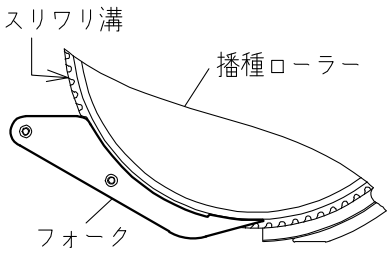
表面のシワに関しては、播種精度上問題はありません。
ただし、磨耗、石などの混入により破れが発生した場合は、使用不可となりますので交換となります。

10. 故障の診断と処置

<table>
<tr><th>現象</th><th>原　　因</th><th>処　　置</th></tr>
<tr><td>モーターが動かない</td><td>(1) 電源コード入れ忘れ。
『メインランプ消灯』
(2) メインスイッチが「ON」になっていない。『メインランプ消灯』
(3) センサコードの接続が適切でない。</td><td>・ AC100V に接続する。
電源電圧の許容範囲は 100V±5V
・ スイッチを「ON」にする。
・ センサコードを接続する。(6-5 参照)</td></tr>
<tr><td>水の出が悪い・水が出ない</td><td>(1) メイン、カンスイの各スイッチが「ON」になっていない。
(2) 水道の蛇口が開かれていないか、水道ホースが曲がっている。
(3) 潅水ノズルが詰まっている。
(4) 減圧弁内のストレーナーの目詰まり。
(5) ウォーターバルブの目詰まり。
① ダイヤフラムの目詰まり。
 
</td><td>・ メインスイッチを「ON」にしてから潅水スイッチを「ON」にする。
・ 水道の蛇口を開き水道ホースの曲がりを直す。
・ 同梱のノズルブラシで掃除をする。
ノズルの穴を針などで掃除をする。
・ キャップを外し、中にあるストレーナーを清掃する。
 

・ メイン・潅水スイッチを「ON」にしたとき、ウォーターバルブは「ピー」と音がするのに水が出ない場合は、ウォーターバルブを分解してダイヤフラムの 3 つの穴(矢印部)を清掃する。
 
</td></tr>
</table>

現象	原　　因	処　　置
	(6) 井戸水など自然水を使用した為潅水装置内にて目詰まりが発生。	・ 清水を使用する。 ・ 目詰まり箇所の掃除をする。
薬剤を吸い込まない	(1) 薬剤タンクが低い位置にあるため吸い込めない。 (2) 吸込みノズル内部のステンレスボールが薬剤で付着している。	・ 薬剤タンクを地上より 10 ㎝くらい上げる。(8-7 参照) ・ 針金、釘等でホースノズルの下より突き上げて、ステンレスボールが軽く動くことを確認する。
ノズルの中に空気が入る	(1) 吸込ノズル下部の吸込口のプラグが外れている。 (2) 吸込口が割れている。	・ プラグを付ける。 ・ 吸込口が割れている物は新品と交換する。
播種ムラになる	(1) ブラシの手前に種籾がない。	・ ホッパー内のシャッターを開く。 
	(2) 種籾の処理が適切でない。	・ 「種籾の処理」を参照ください。
	(3) 種もみの水切りが不十分な為、播種ローラーの溝から落ちないで共回りしてしまう。	・ 水分を十分に切る。脱水機を利用する場合は、最低３分は運転してください。
	(4) シャッター(後)と播種ローラーにスキマがあり、そこから漏れる。	・ シャッター(後)を定位置までスライドさせてください。
苗箱の片側が厚まきになる	(1) 回転ブラシの左右の平行が出ていない。播種機の左右のレベルが出ていない。	・ 軸受板の調節穴を目安に、左右の平行を出してください。
	(2) 回転ブラシにより跳ね飛ばされた種モミが低い方に溜まる。	・ 播種機の左右が平行になる様に、レベルを出してください。

現象	原　　因	処　　置
苗箱の中央が厚まきになる	(1) 回転ブラシの中央部が細くなる為。 （毛の絡みあい）	・ 種モミの水切りを十分に行う。 ・ 回転ブラシの中央部に、ドライバー等を差し込んで、絡まった毛を解いてください。 ・ 回転ブラシの交換をお勧めします
	(2) シャッター(後)と播種ローラーの間にスキマがあり漏れる。	・ シャッター(後)を定位置までスライドさせてください。
播種ローラーの動きが悪い(動かない)	(1) ロールガイドと播種ローラーの間に残量種籾が有り、ロールガイドに食い込んでいる。	・ ロールガイドを取外し両方とも清掃する。 ・ ロールガイドが破損している場合は交換する。
	(2) 播種ホッパーガイド（左右)、シャッターガイドが、播種ローラーに接触している。又、スキマが大きい為種もみが挟まってしまう。 （注) そのままの状態で使用すると播種ローラーが磨耗します。	・ サイドカバーを外しサイドフレームの覗き穴からスキマを確認しながら調整する。尚、スキマは 0.2～0.5 ㎜になるように調整してください。 ※残留種籾排出後は、シャッターガイドの締め忘れに注意してください。 
	(3) フォークと播種ローラーのスリ割り溝部に、種籾のカス等が溜まり回転が重くなる。	・ フォークを取り外し、フォークに付着しているカス、ゴミ等を取り除く ・ 播種ローラーのスリ割り部をカッターの刃等で、カス、ゴミ等を除去する。整してください。 

現象	原　　因	処　　置
播種ローラーの動きが悪い(動かない)	(4) 籾受けカゴに落ちた種籾をホッパーに戻し、土、水、泥が混入した。	・ 籾受けカゴに落ちた種籾はホッパーに戻さないでください。再利用の際は、洗浄し適度な乾燥状態にしてください。
床土・覆土ホッパーの動きが悪い	(1) 土投入の際、ホッパーから外れ、機械内部に土が入り込んでしまった。	・ ホッパー内に投入するようにしてください。
	(2) 土受けに落下した土をホッパーに投入し、濡れた土が混入した。	・ 濡れた土はホッパーに戻さないでください。
	(3) コンベアベルトがスリップし土が繰り出さない。	・ コンベアベルトを張る。
	(4) ベルトローラーに土が付着し、コンベアベルトの動きが悪い。	・ コンベアベルト内及び、ベルトローラーの掃除をする。
床土回転ブラシが均平にならない	(1) 回転ブラシの高さ調節が出来ていない。	・ 高さ調節をする。
	(2) 回転ブラシに稲わら等が付着し、カキトリが出来ない。	・ 稲わら混入の土は使用しない。回転ブラシに付着した稲わら等を取り除いてください。土の水分調整に注意する。付着した土の塊は取り除いてください。
	(3) 土が湿っている為、ダンゴ状となりブラシ、スクレパーに付着する。	・ 床土上面を均す程度に繰出量を調整する。
	(4) 土の繰出量が多すぎて、回転ブラシによる土の持ち帰りが発生する。土の繰出量が少なすぎて、回転ブラシで土を均せない。	・ 床土上面より１㎜程度上面に調整する。
	(5) スミトリ装置で床土上面を掻き取ってしまう。	・ 床土壌面より１㎜程度上面に調整する。

実り豊かな明日をひらく

株式会社 スズテック

〒321-0905　宇都宮市平出工業団地44－3
代　表／TEL.028(664)1111　FAX.028(662)5592
URL　http://www.suzutec.co.jp

20074-41302